

○ ビジョン素案に対する委員からの意見

委員名	該当箇所	意見の内容	対応方針（事務局案）
環境省	全体	「森林づくり」や「森林づくり活動」という言葉に環境教育的活動も含めた幅広い取組が含まれていると思われるため、最初に本ビジョンにおける「森林づくり」とは何かという用語の定義をしておいたほうがわかりやすいのではないか。	通常、「森林づくり活動」とは、植樹、除伐等の森林の手入れや森林を守るためのエゾシカ対策、森林の状態を見るモニタリング調査等、具体的に森林をつくる活動のことで、環境教育活動は含まれないものであり、本ビジョンにおいて定義する必要はないものと考えています。
網走支庁	P 1 0	「2－2 知床の森林を取り巻く現状と課題」 「③ 森林の利用状況」 - 自然ガイド付きツアーは、まだ知床全域とは言えないと思われることから、「例えば知床五湖周辺では」と記載した方が良いのではないか。 - 自然ガイド付きツアーの「利用が増加している」、「ガイドを利用する者の割合未だ低いのが現状である」とあるが、「〇〇%と」などそれぞれその根拠となる具体的な数字を記載した方が、現状がより分かりやすくなるのではないか。	ご指摘を踏まえ、記述の根拠を明確にするため、「また、<u>知床五湖周辺など半島中央部では</u>、自然ガイド付きツアーが知床の楽しみ方として定着しつつあるが、来訪者の内ガイドを利用する者は<u>1割程度に過ぎず未だ低いのが現状である。</u>」と修正することとします。
鈴木（幸）委員	（同上）	「自然ガイド付きツアー」の記述に、ガイド協の活動について全く触れないのは違和感がある。 昨年まとめた報告書や今後の活動について、参考レベルでもよいので載せたほうがよい。	ご指摘の報告書や今後の活動を参考資料として添付することは、他の取組とのバランスから適切でないと考えます。
網走支庁	P 1 0	「ガイド育成の取組や観光スポットの利用をコントロールするための対策」の前に、実施主体や内容など、具体的な取組や対策を記載した方が、より分かりやすいのではないか。	「知床の森林を取り巻く現状と課題」の項目において、種々の取組の内容を詳細に記載することは、他の項目とのバランスから適切でないと考えています。 このため、ご指摘があったことを踏まえて、「一方で、一般利用者と比較して周回ペースが遅いガイドツアーの利用が増えることで、遊歩道の渋滞が助

委員名	該当箇所	意見の内容	対応方針（事務局案）
坂東委員	P 1 1	「3－1. 基本理念」 素案の基本理念について、国民の財産「知床の森林」の価値をどのように一般の方に伝えるのが本来の目的であり、その価値が伝わった結果として始めて、みんなで支え、次世代につなぎたい、という感情が芽生え、「行動」につながる。まず、各分野での専門家の知見、価値観を点ではなく線で結ぶ仕組みを作ることが大切なのではないか。その切り口から、知床のあるいは自然の懐の深さ、尊さを実感できる具体案が生まれるのではないか。 このプロジェクトの第一歩の要はそれぞれの分野での研究、活動をどれだけ一般の方に還元できるのかを明確にすることであり、そのことをふまえたうえで取り組みの推進方向を具体化していかなければ具体的な大きな成果に結びつく可能性を高めることは困難なのではないか。	長され、混雑が増加されるという指摘もあり、ガイドの育成の取組や観光スポットの利用をコントロールするための対策が進められている。」 を削除することとします。 （なお、本記載の実施主体としては、北海道及びエコツーリズム推進協議会などのガイド育成の取組、知床国立公園利用適正化検討会議での一部観光スポットのオーバーユースへの対策を想定して記述していたものです。） ご指摘を踏まえ、P 1 1「基本理念」において、以下を追加することとします。 「・ 森林や動物といった自然科学だけでなく社会科学等も含めた幅広い分野における専門家の調査研究や活動を有効に活用しながら、知床の森林をフィールドとして、より多くの層に対し、自然の雄大さを考えるきっかけをつくり提供していくこと」

委員名	該当箇所	意見の内容	対応方針（事務局案）
鈴木（幸）委員	P 1 2	「３－２．目指す森林の姿」 ・ ２番目と３番目は順番が逆ではないか。ゾーニングの観点では、１番目の「見守るエリア」がコア、３番目の「環境教育エリア」がバッファ、２番目が保全・利用地区（世界遺産地域については域外）という順番ではないか。	・ 本ビジョンは、森林づくり活動等を進めるためのものであり、ご指摘を踏まえて、順番を以下のとおり入れ替えることとします。 「野生動植物を育む生態系豊かな森林」 →【森林づくりエリア】 「感動・楽しみ・学びを体験し、交流を生む森林」 →【森林環境教育エリア】 「自然の推移にゆだねた原生的な森林」 →【見守るエリア】
鈴木（幸）委員	P 1 2	・ また、「野生動植物を育む生態系豊かな森林」という表現では、１番目の「原生的」と混同されてしまう。今回の場合、それらを回復させるための森づくりという意味合いが強いでしょうから、「野生動植物を育む生態系豊かな原生的な森林への復元を目指す森林」とするのが適当ではないか。	・ 森林づくりエリアでの目指すべき森林の姿として「野生動植物を育む生態系豊かな森林」を示しており、ご指摘の趣旨も含めているものと考えています。 特に「原生的な森林への復元」といった言葉の受け止め方には差異が生じやすく、慎重に用いる必要があると考えており、原文のままとします。
鈴木（幸）委員	P 1 3	「４－１．知床の森林をフィールドとした森林づくり活動等の提案」 「（１）活動対象エリア 【森林を楽しむエリア】」 ・ エリア的にはバッファゾーンに当たるので、１２Ｐのニュアンスを継承して「森林に学ぶエリア」としたほうがよいのではないか。	・楽しむことも重要なキーワードであるため、ご指摘を踏まえ、「森林を楽しむエリア」を「森林に<u>学び</u>楽しむエリア」とします。

委員名	該当箇所	意見の内容	対応方針（事務局案）
鈴木（幸）委員	P 1 4 ～ 1 5	「（２）③ 魅力あるプログラムの検討」 ガイドツアーだけでなく、仕組み作り部会で意見がでていたような、スポーツフィッシングやハンティングなどの案も、可能性としては盛り込んだ方がよいのではないか。	本ビジョンは、森林づくり活動や森林環境教育等を主目的としているため、本文には記載ませんが、プログラム・ツアーの参加意欲や付加価値を高めるためのものとして、今後、プログラム・ツアーを具体化する際の検討事項とします。
環境省	P 1 6	「（４）活動に当たっての留意事項」 「シマフクロウの営巣木や給餌場においては、・・・」とあるのを →「シマフクロウ等の希少種の営巣木や給餌場の<u>周辺地域</u>においては、・・・」とすべき。 （理由：オジロワシ等への配慮。営巣木、給餌場は点であり、一定の広がりを持った配慮が必要なため、）	森林づくり活動等に当たり、シマフクロウ等の希少種の生息に影響を与えないよう配慮することはあまりにも当然のことであるため、ビジョンの中では記載しないこととし、 「森林づくり活動や森林環境教育を企画・実施する際、シマフクロウの営巣木や給餌場においては、生息地の放棄につながる行為は避けるとともに、特に繁殖期には、繁殖行動の中止につながる行為を避けるよう、慎重に対応することとする。また、」を削除することとします。
中川委員	（同上）	- 環境省意見のとおり、オジロワシ等を含めた「希少種」と明示すべき。「周辺地域」を入れることも重要。 - また、記述されている「生息地の放棄」や「繁殖行動の中止」は最悪の事態であり、これを避けることは希少種だけでなく一般の鳥獣についても留意することは利用マナーとして常識である。シマフクロウについてこの記述があることに違和感を感じる。シマフクロウは、知床半島全体でわずか２０つがい程度にしかすぎず、それが北海道の半数近くという重要な生息地である。（世界遺産登録の理由となっている）。活動の企画に当たっては「シマフクロウ等希少種の生息に影響を与えない」といった わかりやすい表現が良いのではないか。	（同上）
鈴木（幸）委員	（同上）	シマフクロウなど希少生物への配慮については、慎重な表現にすべき。（中川委員が既にご指摘の通り）	（同上）

委員名	該当箇所	意見の内容	対応方針（事務局案）
環境省	P 1 6	- また、活動によってシマフクロウの営巣地等であることが一般の方に知られないように配慮することが必要であり、このことを付記しておいた方がよい。 - なお、営巣地等を知られることが不可避であれば、ゲートの設置、定期的巡視、監視員の配置などの対策が検討されるべきと考える。	ご指摘の内容について、本ビジョンへ掲載することでの反響も考えられるため、本文へは掲載しないこととしますが、ご意見の趣旨については、今後、活動を進めるうえで十分に配慮していくこととします。
網走支庁	P 1 9 （別紙１）	「５－１平成２０年度以降の主な取組と工程」 「別紙１」の「新組織」について、取組の受け皿となる新組織の役割は非常に重要であることから、予定する具体的な構成員名を記載し、議論した方が良いのではないのでしょうか。	具体的な構成員については、来年度以降に協議会の下に部会を設置して検討していくこととしています。このため、別紙１において、具体的な構成員を記載することは困難です。